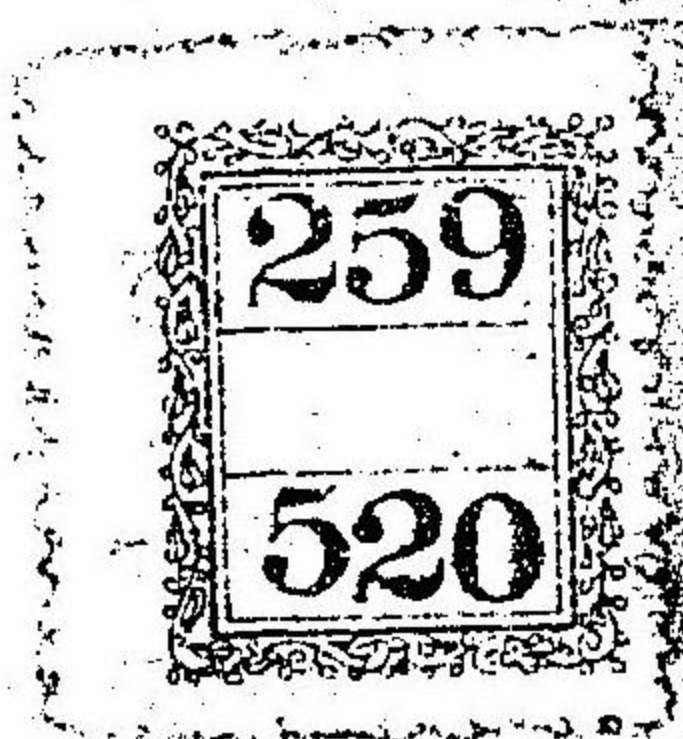


新舊
對照

陸軍懲罰令註解

川流堂小林又七發行



特 30
956

改正陸軍懲罰令註解

緒言

本書は明治四十一年十二月二日軍令第十八號ヲ以テ發布セラレ
 陸軍懲罰令ヲ解釋スルモノナリ此令完全無缺ナルハ固ヨリ論ヲ俟
 スト雖モ凡ソ法令ナルモノハ文章簡ニシテ意味深遠ナルヲ以テ此令
 ニ於テモ實施ニ當リ疑義ニ亘ルモノ頗ル多ク之ニ於テ竊ニ謂ラク文
 意解シ易ラシムル爲メ註釋ヲ附シ一部ノ書ト爲シ刊行スルコト有ラ
 ハ讀者ヲシテ裨益スル僅少ナラサル可シト固ヨリ私解ナキニ非スト
 雖モ幸ニ當年法務官等ニシテ斯思ニ通曉スル仁ニ於テ疑義ヲ質ス幸
 ニ此令ヲ遵守セラル諸彦ノ爲メ得ル所アラシメハ望足ル

明治四十一年初冬

編者 藏



凡例

一本書中「舊令」トアルハ明治三十二年一四ノ改訂ノ陸軍懲罰令ヲ云フ

「新令」トアルハ明治四十年十二月軍令第十八號ノ陸軍懲罰令ヲ云フ

「十四年令」トアルハ明治十四年發布達乙七三ノ陸軍懲罰令ヲ云フ

二本書中「註解」トアルハ私解ニシテ

「參照」トアルハ他ノ條制規則ノ名文ノ引用ナリ

三本書中 三號活字ハ懲罰令ノ本文ナリ

目次

一 陸軍懲罰令註解(新舊對照).....	一
二 軍隊內務書中營倉之定則.....	六十
三 警察犯所罰令.....	六十二
四 文官軍屬懲罰令.....	七十四

改正之主眼

陸軍懲罰令ハ明治十四年十二月ヲ以テ發布明治三十二年一月之ヲ改訂セラレ今回舊令ヲ廢シ新令ヲ發布セラレ

改正ノ理由タルヤ吾輩ノ論スル所ニ非ストモ世運ニ伴ヒ普通刑法及陸海軍ノ刑法或ハ軍隊内務書ノ改正警察犯處罰令ノ發布ノ結果ハ自然本令ノ改訂ヲ促シテ新發布ノ實行ヲ見ルニ至レリ

大要ニ於テハ別ニ其要點ヲ示ス可キモ改正ノ神髓ニ至テハ概ネ左ノ如シ

抑モ從來將校又ハ下士卒ニシテ新聞紙上等ニ其非行ヲ鳴サレ其德義ヲ批難セラルモノ近來ニ於テ増加シ其多クハ刑法ニ觸レサルトモ充分戒責ノ價值アルモノ多キモ舊令ニ於テハ徒ラニ犯罪ノ款目ヲ擧ケ

緊束セラレ所罰ノ餘地少キト又所罰者ト被罰者トノ關係ヲ明ニセラ
 レス故ニ新令ニ於テハ犯罪ノ款目ヲ廣濶ナラシメ單ニ軍人ノ本分ニ
 背ク者アル時ハ所罰セラルルコトトハナリ殊ニ在郷軍人等ニモ適用
 シ以テ豫後備ノ將校團及在郷軍人團トノ連繫ヲ舉ケシム且處罰權限
 ヲ明瞭ナラシメタリ

尙改正ノ要點ノ重ナル部分ヲ説述セハ左ノ如シ

- 一 軍人ト稱スル軍人ノ定義ヲ明ニセリ
- 二 舊令ノ犯行ノ箇條ヲ廢シ新ニ廣義ナル款目ヲ總説セリ
- 三 降等免官譴責禮遇停止
- 右之四罰目ヲ增加セリ
- 四 被處罰者ハ舊令ニ依テハ明ナラス之ヲ明示セリ

- 五 在郷軍人ニモ適用スル如クセリ
- 六 舊令營倉ヲ禁足苦役ニ換ユルコトアルモ新令ニテハ之ヲ獨立
 ノ罰目トシ換罰ヲ廢セリ
- 七 舊令輕營倉者ノ營内居住者ノ俸給減額十分ノ六ヲ十分ノ五ト
 シ營外居住者ノ四分ノ一ヲ十分ノ二トナセリ
- 八 各階級ノ處罰權ハ舊令ヨリ一層確實明瞭トナレリ
- 九 臨時ノ部下タル者ニ對スル處罰權ヲ加フ
- 一〇 衛生機關ノ長官ノ處罰權ヲ加フ
- 一一 聯隊區司令官警備隊區司令官等ノ處罰權ヲ加フ
- 一二 免官降等ハ舊令ニ依レハ懲罰處分者ノミニ適用シ又下土上
 等兵ノミナリシモ下士以下一般ニ適用シ刑法懲罰ニ處セラレシ

モノニ適用ス

- 一三 審査法及言渡法ヲ明ニス
- 一四 處罰ヲ公示シ廉恥心ヲ養成スル項ヲ設ク
- 一五 下級者ノ犯行者ヲ取調ヘ又所屬隊ヘ通報スルコトヲ設定ス
- 一六 俘虜ノ懲罰ヲ新定ス
- 一七 數犯具發ノ規定ヲ廢ス
- 一八 佩劍禁止ノ規定ヲ廢ス
- 一九 犯行ノ款目ヲ廢止ス

陸軍懲罰令註解

第一章 總 則

第一條 陸軍軍人ニシテ其本分ニ背キ軍事上ノ定則ニ違ヒ其他軍紀ヲ害シ風紀ヲ紊リ陸軍刑法ノ罪ニ該ラサルモノアルトキハ本令ニ依リ之ヲ懲罰ス

註 解

此箇條ハ陸軍懲罰ニ附ス範圍ヲ示シタルモノニシテ舊令第一條及第二十五條ヲ總一シテ範圍ヲ廣濶ナラシメ舊令ノ如ク一々犯行ノ款目ヲ列舉シテ舊

舊令
第一條 此令ハ軍人ノ故意疎虞懈怠過失ノ輕犯ニシテ刑法ニ該ラサル者及ヒ業行修マラス軍人ノ體面ヲ汚ス者アル時上官之ヲ懲戒スルノ罰典トシ但他ノ法律規則ニ依テ論スキ者ハ各其法律規則ニ從フ
第二十七條 犯行ノ款目左ノ如シ
一 職務ノ權限ヲ誤ル者
二 訓導ノ道ヲ失フ者
三 上申下達其他定

- 期アル時日ナ積
繰スル者
- 四 文書計算ヲ誤ル
者
- 五 命令ヲ誤リ若ク
ハ之ヲ誤リ傳フ
ル者
- 六 物件ノ調製貯藏
運搬支給ヲ誤ル
者
- 七 職役若クハ屯營
本隊ヲ離ル、者
- 八 他方ニ赴キ歸著
ノ期ニ後ル、者
- 九 行軍ニ際シ發程
及乘艦ノ期ニ後
ル、者
- 十 召集ノ期ニ後ル
者
- 十一 受寄ノ財物若
クハ借用物ヲ典
却スル者
- 十二 官物ヲ擅用ス
ル者

- 十三 法則命令ヲ違
奉セス若クハ之
ヲ誹謗スル者
- 十四 罵詈侮慢若ク
ハ鬪爭スル者
- 十五 暴行脅迫スル
者
- 十六 猥リニ劍ヲ拔
ク者
- 十七 酩酊シテ事ヲ
省セサル者
- 十八 言語所爲詐偽
ニ涉ル者
- 十九 疾病事故ニ託
シ勤務演習ヲ免
レントスル者
- 二十 抗言恃頑從順
ノ道ヲ失フ者
- 二十一 犯罪アルヲ
知テ之ヲ曲庇ス
ル者
- 二十二 勤務演習集
合ノ期ニ後レ若
クハ之ヲ缺キ若

令ト雖款目ノ最後ニ素行修マラサル件ニ依リ款目
ノ脱漏ヲ防キシト雖其意義明カナラス(緊束的處罰
ト異リ此一條ニ依リテ刑法以外ノ犯罪又ハ不品行
者ヲ戒飭處罰スルコトヲ得ルナリ是レカ爲メ舊令
ノ如ク犯行ヲ無理ニ款目ニ當テ處罰スル必要ナク
左ノ諸項ヲ以テ犯則ノ標準トセリ

(一) 軍人ノ本分ニ背キタル者

本項ハ頗ル廣義ニシテ勅諭ノ五ヶ條讀法ノ七
ヶ條ヲ犯ス動作所爲ヲ稱シ以テ本令改正ノ特
徴トナス

(二) 軍事上ノ定則ニ違ヒタル者

軍隊内務書及其他ノ軍事ノ定則ニ違ヒタル者
假令舊令ノ服裝法ニ違ヒタル者又ハ敬禮ヲ缺
ク者等總テ此項ニ依束シ得ルナリ

(三) 軍紀ヲ害スル者

軍紀秩序ヲ亂ス者ニシテ舊令暴行脅迫スル者
失言過語若シクハ應答事理ヲ誤ル者等一例ナリ

(四) 風紀ヲ紊ル者

猥リニ劍ヲ拔ク者酩酊事ヲ省セサルモノ又ハ
警察犯處罰令ヲ犯シタルモノ等總テ之ヲ該當
ス

陸軍軍人ト稱スルハ概ネ本令第二條ニ示スモノナ

- クハ之ヲ懈ル者
- 二十三 服装法ニ違フ者
- 二十四 敬禮ヲ闕ク者
- 二十五 官給ノ物件措置拭拂法ニ違フ者
- 二十六 物件ヲ誤毀遺失若クハ汚損スル者
- 二十七 失言過語若クハ應答ノ事理ヲ誤ル者
- 二十八 軍人ノ態度ヲ失フ者
- 二十九 上ニ搦ケル犯目ノ外業行修マラサル者

舊令
 第二條 各所管ノ長官
 軍團長師團長及衛戍司令官ハ部下ノ軍人此令ヲ犯ス者アル時

之ヲ罰スヘシ

第二條 本令ハ左之各號ノ者ニ之ヲ適用ス
 一 陸軍現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク

註解

下士以下ハ徵兵終決處分ニテ現役ト決定セラレシモノ將校ハ目下奉職出務シアル者ヲ云フ
 但シ未タ入營セサルモノ及歸休トナリ郷里ニアル者ヲ除ク

二 召集中ノ在郷軍人

註解

在郷軍人トハ休職停職豫後備役ノ將校同相當官准士官豫後備役下士兵卒(輸卒職工ヲ包含ス)歸休兵及十二月一日以後ニ於テ未タ入營セサル現役兵並補充兵ヲ云フ

三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人

註解

在郷軍人ニシテ志願ヲ爲シ陸軍軍人ノ勤務ヲ採ルモノアリ即聯隊區司令部書記ノ如キ之ナリ陸軍省屬ノ如キハ陸軍軍人ノ勤務ニ非ス

四 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務

中ノ者

註解

戰時又、事變ニテ國民軍ヲ編成シタル場合ナリ

五陸軍所屬ノ學生生徒但シ各部隊依託學生同生徒ヲ除ク

註解

學生トハ現在ニ陸軍ニ籍ヲ有スル軍人ヲ集メ某事條ヲ研究又ハ教育スル爲メ學校ニ入校セシメル其學フ者ヲ學生ト稱ス生徒トハ陸軍召募規則ニ依リ地方人ヨリ募集シタルヲ云フ

陸軍大學陸軍戸山學校同砲工學校騎兵實施學校野

舊令
第九條 軍醫及陸軍所屬ノ諸生徒此令ヲ犯ス者アルトキハ軍人ト同ク處分ス可シ但軍醫高等官ハ將校ニ判任官ハ下士ニ諸生徒其他ノ者ハ諸卒ニ準シテ處分ス

砲兵射擊學校重砲兵射擊學校ノ者ハ學生ナリ

陸軍士官學校中央幼年學校地方幼年學校砲兵工科

學校經理學校(主計候補生)軍樂學校ハ生徒(各部依託學生徒トハ軍醫部

獸醫部ノ者ヲ云フ)

六第二號及第三號ニ記載シタル者ノ外現

ニ服役上ノ義務履行中又ハ陸軍軍人ノ身分ヲ表彰シ得ヘキ服裝ヲ爲ス在郷軍人

註解

現ニ服役義務履行中ノ者トハ召集途中ニアル者又ハ簡閲點呼ニ出場中ノ者等ヲ云フ

制式ノ軍服ハ尤ヨリ舊制ノ絨衣袴ヲ着用シテモ兎

ニ角軍人トシテノ身分ヲ表彰スヘキ服裝ヲシタル
在郷軍人ヲ云フ

第三條 陸軍刑法第十條乃至第十三條ノ規
定ハ海軍所屬ニ關スルモノヲ除ク外本令
ニ之ヲ準用ス

參照

◎陸軍刑法

第十條 陸軍將校同相當官陸軍准士官海軍將校同相
當官海軍候補生及海軍准士官ハ陸軍將校ニ準ス陸
軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スルモノモ
亦同シ

同第十一條 陸軍士官ノ候補者ニシテ下士ノ階級ニ
アリ士官ノ勤務ニ服セサルモノハ陸軍下士ニ準ス
同第十二條 陸軍ノ兵役ニ在リテ官等等級ヲ有セザ
ル者ハ兵卒ニ準シ陸軍士官ノ候補者ニシテ兵卒ノ
階級ニ在ル者亦同シ

同第十三條 在郷軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ
役ニ在ル者現役ニ在リテ未タ入營セサル者陸軍ノ
歸休兵及退役陸軍將校同相當官准士官ヲ云フ

第四條 第二條第一號乃至第五號ニ該當ス
ル者犯行アリテ未タ懲罰處分ヲ經ス其職
務ヲ去リ又ハ除隊若クハ召集解除トナリ

タル場合ト雖モ必要ニ依リ特ニ之ヲ懲罰
スルコトヲ得前項ノ場合ニハ第六條ノ罰
目ヲ科ス

註解

本條ハ現役滿期者勤務演習召集者解隊期日ニ追リ
犯行シタル者又ハ召集ニ依ラス部隊ニ在リテ軍人
ノ勤務ニ服スル在郷軍人等カ職務ヲ去リテ後モ之
ヲ處分スルモノニシテ此場合ニハ第二條第六項即
在郷軍人ニ課スル罰目ヲ用ヒ第五條ヲ用ヒサルコ
トヲ明ニセリ

第二章 罰目

第五條 第二條第一號乃至第五號ノ者ニ科
スヘキ罰目左之如シ

將校	下士	兵卒
一重營倉	一免	官一降
二輕營倉	二重營倉	二重營倉
三譴責	三輕營倉	三輕營倉
	四禁	足四苦
	五譴責	五禁
		足

註解

從來ノ懲罰ノ罰目ニ比スレハ「譴責」ヲ増シ又舊令第
十七條ノ場合ヲ明記シテ「免官」ヲ増ス又上等兵以下

舊令
第十二條 將校及同等
官ニ科ス可キ罰目
一 重譴責
二 輕譴責
舊令
第十三條 下士ニ科ス
可キ罰目
一 重營倉
二 輕營倉
舊令
第十四條 諸卒ニ科ス
可キ罰目
一 重營倉
二 輕營倉
舊令
第十七條 下士上等兵

應、第十三條第十四條ノ處分ヲ受ケ仍ホ
檢改ノ狀ナク部下ノ
儀表ニ堪ヘサル者ハ
其官職ヲ免ス但兵役
ハ之ヲ免セス其官職
ヲ免シタル者檢改ノ
効アルトキハ之ヲ免
シタル日ヨリ六月ノ
後之ヲ復スルコトヲ
得

官職ヲ免シ又ハ之ヲ
復スルハ近衛都督師
團長若クハ之ト同等
以上ノ權アル長官ニ
於テ之ヲ爲ス

第十五條 謹慎ハ勤務
ヲ停メ他出及ヒ外人
ト接見通信スルコト
ヲ禁ス其日數ハ一日
以上三十日以下ト爲
ス

重謹慎ハ俸給ノ半額

ハ官職等ニ非スシテ等級ナレハ官職ヲ免スルノ義
至當ナラス「降等」トセリ

第六條 第二條第六號ノ者ニ科スヘキ罰日
左ノ如シ

- | | | |
|-------|----|----|
| 將校 | 下士 | 兵卒 |
| 一禮遇停止 | 一免 | 官 |
| 一責 | 一譴 | 一降 |
| 一責 | 一譴 | 一責 |

註解

在郷軍人ニ對スル所罰法ニシテ新ニ増加セラレタ
ル箇條ナリ

第七條 重謹慎輕謹慎ハ各其日數一日以上

ヲ減シ輕謹慎ハ其四
分ノ一ヲ減ス

三十日以上三十日以内トシ勤務ニ服スル
コト居室外ニ出ツルコト及外人ト接見ス
ルコトヲ禁ス但シ輕謹慎ニ處セラレシ者
ハ聯隊長及是ト同等以上ノ罰權ヲ有スル
上官之ニ演習教育等ノ爲メニ出場ヲ命ス
ルコトヲ得

重謹慎輕謹慎ニ處セラレシモノハ罰期間
重謹慎ニアリテハ俸給十分ノ五輕謹慎ニ
アリテハ俸給十分ノ二ヲ減ス

註解

本條ハ即チ謹慎ノ日限及方法ヲ示シタルモノナリ

將校謹慎ヲ命セラレタル時ハ其重輕ニ依ラス出務スルコトヲ得ス又自用ノ爲メ他出スルコトヲ得サルハ勿論他人(同住者以外ノ者)ト接見シ又之下文書ヲ往復スルコトヲ得サル可シ
又重輕謹慎ノ別アルモ單ニ俸給ノ減引ノ度ヲ異ニスルノミ

然レトモ聯隊長ト同等以上ノ罰權ヲ有スル上官之ニ演習教育等ノ爲メ特ニ出場ヲ命スルコトヲ得故出場ヲ命セラレシ時ハ勿論公務以外ニ他ノ同輩又ハ上官ト談話スルコト叶ス私用外出私用ノ信書ヲ爲スコトヲ得ス

營内居住者ハ營内居室ニテ謹慎スルヲ至當トス又此所分ヲ受クレハ別斷監視人ナシト雖將校ハ自ラ進ンテ慎意ヲ表スルモノナレハ被所罰將校ハ言フ迄モナク德義ニ省ミテ閉居スルヲ要ス此ハ往昔ノ閉門ニ等シク武士道的ノモノナリ
俸給ノ減額ハ舊令ノ重謹慎ハ半額ヲ減セラレ新令モ亦タ同シ然シ輕謹慎ハ舊令四分ノ一ノ減額新令ハ十分ノ二ナリ

第八條 免官ハ其官ヲ免シ一等卒ト爲シ降等ハ一階級ヲ下ス

註解

免官ハ曹長同等ノ者即一等工長又一等計手モ同シ

一等卒トナル

軍曹同等ノ者即二等工長又二等看護長モ同シ

シ一等卒トナル

伍長同等ノ者即三等工長三等計手等モ同シ

一等卒トナル

決シテ曹長ヲ軍曹ニ降スコトナシ又各下士ハ現所
屬兵科軍樂部ハ歩兵科トナル

上等兵(伍長勤務ハ上等兵ニ準ス)一等卒ト爲

シ一等卒ヲ二等卒ニ爲ス

或ハ上等看護卒ハ一等看護卒ト爲シ上等縫

工卒ハ一等縫工卒トナル

第九條 重營倉ハ其ノ日數一日以上三十日

以內トシ營倉ニ錮シ寢具ヲ貸與セラレス
飯及湯鹽ノミヲ給シ演習及教育ノ場合ヲ
除ク外勤務ニ服スルコトヲ禁ス但シ三日
ノ内一日ハ寢具ヲ貸與シ輕營倉ニ處セラ
レタル者ト同一ノ食ヲ給スルモノトス
氣候風土疾病等ニ依リ必要アルトキハ聯
隊長及之ト同等以上ノ罰權ヲ有スル上官
茲ニ獨立分屯若クハ分遣スル軍隊長ハ重
營倉ニ處セラレタル者ニ對シ特ニ寢具ノ

舊令
第十八條 重營倉ハ演
習ノ外勤務ヲ停メ營
倉ニ錮シ唯飯及湯鹽
ヲ給シ寢具ヲ貸與セ
サルヲ例トシ其日數
ハ一日以上三十日以
下ト爲ス但七十二時
ノ内ニ二十四時間ハ
輕營倉ニ移ス可シ
重營倉中天候若クハ
疾病ニ依リ醫官其必
要ヲ證認スルトキハ
寢具ヲ貸與スルコト
ヲ得

使用ヲ許スコトヲ得

註解

舊令ト大差ナシ只七十二時ノ内ニ二十四時間ハ輕營倉ニ移スコシトアルヲ三日ノ中一日ハ輕營倉ノ待遇ヲ爲スノミニシテ此事實ハ新舊大差ナケレトモ字句上改訂シタルモノナリ

舊令ハ氣候疾病等ニ依リ醫官ノ認定ヲ以テ寢具附與セルモ新令ハ隊長之ヲ命スルモノニシテ醫官ハ隊長ノ顧問タルニ過キス之レ至當ナルコトナリ

第十條 輕營倉ハ其日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ錮シ演習及教育ノ場合ヲ除

舊令 第十九條 輕營倉ハ演習ノ外勤務ヲ停メ營倉ニ錮ス其日數一日以上三十日以下ト爲ス

ク外勤務ニ服スルコトヲ禁ス

註解

寢具及食事ハ附與セララル

第十一條 重營倉輕營倉ニ處セラレシ者ハ

罰期間左之例ニ依リ俸給ヲ減ス

重營倉 營内居住者ニ在リテハ十分ノ

八營外居住者ニ在リテハ十分ノ五

輕營倉 營内居住者ニ在リテハ十分ノ

五營外居住者ニ在リテハ十分ニ

註解

舊令 第二十一條 重營倉ニ處スル時營内居住ノ者ハ俸給十分ノ八ヲ減シ營外居住ノ者ハ其半額ヲ減ス 輕營倉ニ處スル時營内居住ノ者ハ俸給十分ノ六ヲ減シ營外居住ノ者ハ其四分ノ一ヲ減ス

此條新舊大差ナシ只減給ノ程度ヲ異ニシタル大差ナシ

第十二條 禁足及苦役ハ各其日數一日以上六十日以内トス

註解

舊令ハ營倉ヲ苦役禁足ニ換算シタルモ新令ハ獨立ノ罰目トセリ

第十三條 禁足ハ勤務演習及教育ノ場合ヲ除クノ外營内居住者ハ營内外ニ營外居住者ハ居住外ニ出ツルコトヲ禁ス

註解

舊令 第二十三條 營倉ニ處ス可キ者下士上等兵諸生徒及ヒ營外居住ノ者ナル時ハ禁足ニ在營兵卒ナル時ハ苦役ニ換フルコトヲ得禁足苦役ニ處スル時其日數ハ重營倉ノ一日ヲ三日ニ輕營倉ノ一日ヲ二日ニ折算ス禁足苦役ニ處スル時營内居住ノ者ハ其俸給十分ノ二ヲ減ス

舊令

第二十四條 禁足ハ勤務演習ノ外營外ニ出ルコトヲ禁ス營外居住ノ者ハ勤務演習ノ外他出ヲ禁ス但水火災疾病アル時ハ此限ニ在ラス
第二十五條 苦役ハ勤務演習ノ外營外ニ出ルコトヲ禁シ雜役ヲ執ラシム

勤務演習學科ノ外ハ營内居住者ハ營外ニ出ルヲ禁シ營内ト雖猥リニ班内或ハ自習室居室等ヲ出ス又營外居住者ハ公務ノ外住居ヨリ出ル能ハスシテ將校ノ謹慎ト同様ノ所置ヲナスモノトス

第十四條 苦役ハ營内居住者ニ科シ勤務演習及教育ノ場合ヲ除ク外營外ニ出ルコトヲ禁シ營内ノ雜役ニ服セシム

註解

在營者ニ課ス内務班内又ハ居室自習室等ニ在ラシメ勤務演習學科等ノ外營外ニ出ルヲ禁シ舍外ト雖大小便入浴等ノ外猥リニ出ルハ不可ニシテ謹慎ヲ

表シ居リ且ツ諸雜役ニ使用セララル

第十五條 譴責ハ犯行ヲ糺シ將來ヲ戒飭ス
ルモノトス

註解

單ニ犯行ニ就テ事實ヲ(始末書又ハ口頭糺問)糺シ其
所爲ヲ講評シ將來ヲ訓戒スルヲ云フ

第十六條 禮遇停止ハ一月以上一年以内ト
シ召集ノ場合ノ外陸軍制服ノ着用ヲ禁シ
軍人ノ禮遇ヲ停止ス

註解

本條ハ新ニ加ラレタル罰目ニシテ舊令ニナシ在郷

軍人ノ將校ニ課スルモノニシテ其期間ハ召集ノ場
合ノ外陸軍制服(正裝軍裝略裝ヲ問ハス)着用ヲ禁シ
軍人トシテノ公會集會ニ參列セズ又官中參賀觀兵
式等ノ參列總テ禮遇ヲ停止セララル

第十七條 罰目ハ之ヲ併科セサルモノトス
但シ免官及降等ハ之ヲ重營倉ニ附加スル
コトヲ得

註解

本條ハ數罪具發ノ場合ニ非スシテ同一ノ犯罪ニシ
テ罰目ヲ禁足及營倉ト兩者ヲ課セス營倉ナレハ營
倉ノミヲ課シ禁足ヲ課セス同シ營倉ト雖モ重輕兩

者各別ナリ

然レトモ免官降等ハ但シ書ニ依リ重營倉其他ニ附加スルコトヲ得ルモノトス

第三章 罰 權

第十八條 師團長及之ト同等以上ノ權アル軍隊ノ長ハ部下ニ對シ本令ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス

註 解

師團長ト同等以上ノ軍隊長トハ戰時ハ軍司令官ヲ言ヒ又韓國駐節軍司令官ノ如キヲ云フ
一切ノ罰目トハ第二章ニ掲ルモノノ最大限ニ所罰シ

舊令

第二條 各所管ノ長官
軍團長師團長旅團長
及衛戍司令官ハ部下ノ軍人此令ヲ犯ス者アル時之ヲ罰スヘシ

舊令

第三條 各軍隊ノ隊長ハ左ノ區別ニ從テ處分ス可シ
一 聯隊長ハ部下ノ軍人三十日以内ノ謹慎營倉
二 大隊長ハ部下ノ士官十日以内ノ罰

備下士二十日以内ノ營倉兵卒三十日以内ノ營倉

三 中隊長ハ部下ノ下士十日以内ノ營倉兵卒二十日以内ノ營倉

獨立若クハ分屯ノ大隊長及憲兵隊長ハ第一項ニ獨立若クハ分屯ノ中隊長及分遣隊長タル中少尉並ニ憲兵分隊長第二項ニ軍樂隊長ハ第三項ニ同シ

第四條 前條ニ掲クル

モノ、外ハ左ノ區別ニ從テ處分ス可シ
一 將官並ニ獨立ノ職ニ在ル上長官ハ前條第一項ニ同シ
二 獨立セサル職ニ在ル上長官並ニ獨立ノ職ニ在ル士官ハ前條第二項ニ同シ

得

第十九條 旅團長聯隊長並獨立分屯若クハ分遣セル軍隊ノ長タル將官及佐官ハ免官ヲ除ク外部下ニ對シ一切ノ罰權ヲ有ス

註 解

獨立軍隊ノ佐官 工兵大隊長 南滿洲獨立步兵大隊長 教導大隊長 士官學校生徒隊長
分屯若クハ分遣セル軍隊佐官滿韓守備隊ニ於ケル如ク

右ハ免官ヲ除ク外第七條乃至第十七條ノ最大限ヲ所罰シ得

第二十條 大隊長及獨立分屯若シクハ分遣

三 獨立セザル職ニ在ル士官ハ前條第三項ニ同シ

四 前各項ノ場合ニ於テ將官又ハ上長官ヲ以テ充ツル職ニ在ルモノハ將官、上長官又ハ士官ヲ以テ充ツル職ニ在ルモノハ上長官士官又ハ准士官ヲ以テ充ツル職ニ在ルモノハ士官ニ同シ

セル軍隊ノ長タル大尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有ス

- 一 士官準士官ニ對シ十日以内ノ重謹慎輕謹慎竝譴責
- 二 下士ニ對シテ二十日以内ノ重營倉輕營倉四十日以内ノ禁足竝譴責
- 三 兵卒ニ對シテ三十日以内ノ重營倉輕營倉竝六十日以内ノ苦役禁足

註解

獨立軍隊ノ大尉(教導中隊長懲治隊長等)分屯分遣軍隊ノ大尉(滿韓樺太等)ニテ分遣又ハ分隊

ノ中隊長ノ如キ)

軍隊內務書第五章第四參照

第二十一條 中隊長及獨立分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル中少尉ハ部下ニ對シ左之罰權ヲ有ス

- 一 士官準士官ニ對シ譴責
- 二 下士ニ對シテ十日以内ノ重營倉輕營倉竝二十日以内ノ禁足竝譴責
- 三 兵卒ニ對シテ二十日以内ノ重營倉輕營倉竝四十日以内ノ禁足苦役

註解

別斷ニ註スル所ナシ

第二十二條 第十八條乃至第二十一條以外ノ各長官ハ左ノ各號ニ依リ部下ニ對シ罰權ヲ有ス

- 一 師團長ト同等以上ノ權アル將官ハ師團長ノ罰權
- 二 前號以外ノ將官同相當官ハ旅團長ノ罰權
- 三 大中佐同相當官ヲ以テ充ツ可キ職ニ在ル者竝獨立ノ職ニ在ル少佐同相當官ハ聯隊長ノ罰權

- 四 前號ノ外少佐同相當官ヲ以テ充ツ可キ職ニ在ル者竝獨立ノ職ニ在ル大尉同相當官ハ大隊長ノ罰權
- 五 前號ノ外大尉同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル中少尉同相當官ハ中隊長ノ罰權

註解

本條ハ軍隊ノ長ニ非スシテ官衙學校等ノ長官ノ所罰權ヲ示シタルモノナリ

- 一 師團長以上ノ權アル將官
陸軍大臣參謀總長教育總監等之ナリ

第二十三條 臨時ノ部下ニ對スル上官ノ罰權ハ第十八條乃至第二十二條ノ規定ニ依ル

註解

本條ハ演習又ハ會議或ハ戰時特殊部隊ノ如キ臨時ノ編合ノ場合ニ於ケル部下ノ所罰權ヲ規定シタルモノナリ

第二十四條 患者ヲ收容スル衛生機關ノ長官ハ下士以下ノ患者ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

註解

衛戍病院平戰兩時ニ於ケル諸病院患者收容所等ノ長官ハ部下ニ非ストモ患者タル下士以下ノ犯行ニ對シ所罰權ヲ有セシメタルナリ

第二十五條 東京衛戍總督衛戍司令官要塞司令官及警備隊司令官其他一地域ニ於ケル陸軍ノ秩序ヲ維持シ警備ニ任スル司令官ハ其ノ職權ニ基ク命令規則ニ對スル犯行者アルトキハ下級官等ノ軍人ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

註解

東京衛戍總督及各地衛戍司令官要塞司令官及警備

隊司令官含營露營司令官等其他臺灣樺太韓國ノ如キ某地方ノ警備ニ任スル司令官例へ中少尉タリトモ其職務施行區域内ニテ警備ノ爲メ其他職務上ニテ出シタル命令規則ニ對シ犯行者アラハ部下ニ非ストモ部下ト同等第二十二條ノ罰權ヲ有ス

即仙臺地方ノ軍人東京衛戍地内ニテ東京衛戍總督ノ命令ヲ犯セハ仙臺衛戍ノ者ト雖モ衛戍總督ハ之ヲ所罰シ得

第二十六條 師團長聯隊區司令官警備隊司令官及警備隊區司令官ハ其ノ所管内ニ現住スル在郷軍人ノ犯行ニ對シ第六條ノ罰

目ヲ科スルノ權ヲ有ス但シ上長官以上ノ懲罰士官准士官ノ禮遇停止及下士ノ免官ハ師團長其他ハ聯隊區司令官警備隊司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ之ヲ懲罰スルモノトス

註解

警備隊司令官ト警備隊區司令官ハ大底兼勤スルモノトス

本條ハ在郷軍人ニ關スル所罰者ヲ示シタルモノナリ

第二十七條 上級職務心得勤ノ者及二官等

ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル下級者ノ罰權ハ上級官等ノモノニ同シ三官等以上ヲ通シテ充ツルヲ得ル職ニ在ル者ノ罰權ハ其官等相當ノモノトス

註解

上級職務心得勤即チ中隊長心得ノ中尉或ハ二官等通シテ充ツルコトヲ得ル即中小佐ヲ以テ長トスル某部アリ其長少佐ナルトキハ中佐ノ罰權ヲ有シ少佐ノ罰權ニ非ス
又三官等ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル即某部長ハ尉官トアルトキハ少中大尉三官等ナルヲ以テ少尉ナ

レハ少尉ノ罰權ヲ施行スルヲ言フ

第二十八條 將校同相當官ノ部下ニ屬スル各兵科將校ノ犯行ハ該上官ノ具申ニ基キ其ノ長官タル將官又ハ各兵科將校之ヲ懲罰スルモノトス

註解

衛生部經理部等ノ相當官ヲ長トシテ戴キ其ノ部下ニ屬スル各兵科ノ將校ノ犯行(衛生隊等ニ於ケル)ハ直接ニ其相當官タル長官ハ所罰出來スシテ具申ヲ爲シ其長官タル本科將校之ヲ懲罰ス

第二十九條 直屬上官ニ非サル長官部下ノ

犯行ヲ現認シタルトキハ直ニ自己ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰スルヲ例トス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受罰者ノ直屬上官ニ通知スヘシ

註解

本條ハ單ニ長官ト稱スルモ權限範圍外ヲ稱スルニ非シテ例令臨時編合ノ隊長衛生機關ノ隊長又ハ衛戍司令官等第二十三條第二十四條第二十五條ノ關係ノ部下ノ犯行或ハ又ハ二以上直屬系統ノ上階級ナル人即大隊長又ハ聯隊長大隊内又ハ聯隊内ノ兵卒ノ犯行ヲ現認シタルトキハ自己ノ權限ニテ之ヲ

所罰シ直屬タル中隊長ニ通報スルモノトス

第三十條 上官ニシテ自己ノ權限以上ノ處分ヲ要スル犯行者アルトキハ先ツ其權限ニ依リ之ヲ懲罰ニ意見ヲ附シテ自己ノ直屬上官ニ申報スヘシ

部下ニシテ犯行者アリテ其犯行ヲ所罰スルニ自己ノ權限ニテハ不充分ト認メシ時ハ先ツ自己ノ權限ニテ之ヲ所分シテ加罰ヲ申報スル權ノナリ

第三十一條 懲罰所分ヲ爲シタル各上官ハ其直屬上官ニ申報シ受罰者臨時ノ部下ナルトキハ仍受罰者ノ直屬上官ニ通報スヘシ

受罰者在郷軍人ニシテ官公吏ナルトキ
ハ前項ノ外之ヲ本人所屬ノ官公署ニ通
報スヘシ

註解

懲罰所分ヲ爲シタル上官ハ其直屬上官例令兵卒犯
行シ中隊長之ヲ所罰セハ大隊長ニ申報ス又受罰者
在郷軍人ニシテ官公吏ナレハ本人所屬公署ニ通報
ス即巡查ナレハ警察署ニ通報スルナリ

第三十二條 前二條ノ申報ヲ受ケタル上官
必要ニ應シ其ノ權限ニ依リ懲罰期間ヲ増

加シ又ハ免官降等ヲ附加スルコトヲ得但
シ加罰ノ日數ヲ通算シ第七條第九條第十
條第十二條第十六條ノ期間ヲ超過スルコ
トヲ得ス

註解

加罰申報又ハ單ニ所罰申報ヲ受ケタル上官ハ其意
見ヲ調査シ或ハ犯罪ヲ考察シ懲罰ノ期日(重營倉ヲ
輕營倉又ハ輕營倉ヲ重營倉ニスルニ非ス此ノ如キ
ハ第三十三條ニ依リテ施行ス)増加シ免官降等ヲ附
加スルコトヲ得如何ニ加罰スルモ合計ハ懲罰ノ最
大限(第九第十第十二條)ヲ越ユルコトヲ許サス

第三十三條 上官ハ部下ノ懲罰所分及其ノ執行ヲ監督スヘシ其ノ懲罰所分ニシテ本令ノ規定ニ反スルモノアルトキハ其罰目罰期ヲ變更シ若ハ懲罰處分ヲ取消スコトヲ得

註解

上官ハ部下ノ懲罰所分及其執行ヲ監督ス即聯隊長ハ大隊長及中隊長ノ懲罰所分ノ適否及實施ノ確否ヲ監督ス其所分ニシテ懲罰令ノ規定ニ反スルカ如キアルトキハ其罰目ヲ變更シ罰期ヲ増減シ或ハ不法ノ如キ所分ナレハ取消スコトヲ得ルナリ

第四章 處罰

第三十四條 免官降等ハ屢々刑罰ノ處分ヲ受ケ仍改悛ノ狀ナキ者ニ科スルヲ例トス

註解

免官降等ハ單ニ初犯ニ科ス可キ罪目ニ非ラスシテ屢刑法及懲罰ニ處セラレテ尙改悛ノ狀少キ者ニ科ス此ノ如キハ或ハ一層甚シキモノハ懲治卒トシ懲治隊ニ入隊セシムルコトアリ

然レトモ初犯ト雖モ狀情ニ依リテハ或ハ免官降等ヲ爲スモ差支ナシ故ニ「例トス」ノ字句アリ

第三十五條 重謹慎重營倉ハ故意ニ係ル犯

舊令
第十七條 下士上等兵
屢第十三條第十四條ノ處分ヲ受ケ仍ホ改悛ノ狀ナク部下ノ儀表ニ堪ヘサル者ハ其官職ヲ免ス但兵役ハ之ヲ免セス其官職ヲ免シタル者改悛ノ効アルトキハ之ヲ免シタル日ヨリ六月ノ後之ヲ復スルコトヲ得
官職ヲ免シ又ハ之ヲ復スルハ近衛都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ於テ之ヲ爲ス

行ニ科シ輕謹慎輕營倉ハ過失ニ係ル犯行ニ科スルヲ例トス

註解

新令ノ過失ハ疎虞懈怠過失ノ總稱ニシテ廣義ニ解スルヲ至當トス

第三十六條 懲罰處分ヲ爲スニハ犯行ノ事

實ヲ審查シ其ノ弊害ノ程度犯行ノ情況其他受罰者ノ性行等ヲ斟酌シテ罰ヲ定ムヘシ

註解

處罰ヲ爲スニハ犯行ノ事實ヲ審查ス假令中隊兵卒

舊令 第二十二條 第二十五條ニ掲ケル所ノ犯行疎虞懈怠若クハ過失ニ係ル者ハ輕謹慎輕營倉ニ處シ其故意ニ係ル者ハ重謹慎重營倉ニ處ス

ナレハ始末書或ハ他人ノ訴願等ニ依リ內務班長或ハ特務曹長週番士官等査定シ更ニ中隊長之ヲ審査シ彼是合一スル所ヲ舉テ其ノ及ス罪惡ノ程度及犯行當時ノ情狀平素ノ品行等ヲ比較シテ罪ヲ決ス

注意

犯罪ノ嫌疑者ヲ互撰シ投票シ又ハ私ニ糾問スル等ハ軍隊內務書ニ禁示シアリ

第三十七條 懲罰處分ヲ爲スニハ犯行ヲ指

摘シ口頭ヲ以テ其ノ懲罰ヲ言ヒ渡スヘシ若シ犯行者ノ所在地遠隔スルトキハ言渡書ヲ作り之レヲ其ノ直屬上官ニ送付シ同

官之ヲ讀聞スヘシ但シ直屬上官アラサル
トキハ本人ニ送付スルモノトス
前項懲罰ノ言渡ハ適宜ノ方法ニ依リ之
ヲ部隊中ニ公示スルモノトス但シ犯行
ノ情況ニ依リ其必要ヲ認メサルモノハ
此限リニ非ラス

註解

陸軍刑法ハ裁判權ノ所轄ニ屬シ懲罰令ハ行政上ノ
處分ニ係ルカヲ以テ此性質全ク異ル故ニ豫審公判
等ノ鄭重ナルコトナク一通リ犯罪ノ取調ヲ爲シ其
犯行ヲ口答ヲ以テ指摘シ其懲罰處分ヲ言ヒ渡スモ

ノトス

又犯行者遠隔東京衛戍總督習志野衛戍ノ者ヲ處罰
スルカ如キ時ハ言渡書ヲ作り本人ヲ直屬上官ニ送
付シ直屬上官之ヲ讀聞ス
直屬上官アラサルモノ即チ聯隊區司令官在郷軍人
ニ對スル或ハ獨立ノ職ニアル最高級者ガ犯人タル
トキ衛戍司令官ガ所謂スル等ノ關係ノ如キ時ハ言
渡書ヲ直接本人ニ渡スモノトス
前項ノ處分ヲ爲スニ必要ノ場合ハ會報カ又ハ揭示
等ヲ以テ之ヲ其關係部隊ニ公示シ處罰ヲ明ニスヘ
シ

第三十八條 懲罰ノ言渡シニハ受罰者將校ナルトキハ其直屬上官若シクハ受罰者ト同等以上ノ者受罰者下士以下ナルトキハ其上級者若シクハ同級者ヲ陪列セシムルヲ例トス

註解

懲罰判決ノ申渡ニハ受罰者カ將校ナル時ハ其直屬上官即中隊附士官ナル時ハ中隊長陪列シ大隊長ヨリ宣告セラレ或ハ新參小尉ナレハ中尉又ハ古參小尉附添へ中隊長ヨリ言渡ヲ受ク若シ軍隊附ノ下士以下ナレハ軍隊內務書第九章第七ニ依リ之ヲ爲シ

或ハ其他ノ官衙ナレハ上級者又ハ同級者陪列ス

第三十九條 懲罰ハ言渡後直チニ之ヲ執行ス但シ勤務其他ノ必要ニ依リ執行猶豫ヲシ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得前項猶豫又ハ停止ノ日數ハ懲罰期間ニ算入セス

註解

懲罰ノ執行ハ宣告ノ後直ニ實行スト雖勤務ノ申送り未濟等事故アル時ハ之ヲ猶豫シ或ハ餘人ヲ以テ更ヘラレサル勤務職務者ハ之ヲ停止スルコトヲ得或ハ已ニ時期午後十一時ニ至リ今ヨリ實施シテモ

翌日ニ廻ササル時ハ其日ハ已ニ一日ヲ經タルモノナルヲ以テ處罰ノ精神ニ反ス故ニ此ノ如キ必要ナル場合ニハ猶豫ヲ行フコトヲ得ルナリ

第四十條 戰時又ハ事變ノ場合ハ載罰ノ儘服務セシムルコトヲ得但シ其服務日數ハ懲罰期間ニ之ヲ算入ス

註 解

舊令 第十條 戰時若クハ事變ノ際ニ在テハ第三條ノ諸官ハ處罰中ノ者ニ載罰ノ儘服務ヲ命スルコトヲ得但此場合ニ於テハ服務中ノ期日ヲ處罰日數ニ通算ス

戰時若シクハ戒嚴等ノ場合ハ單ニ名譽即(手牒及考科表)汚損ニ止マリ肉體ノ所罰ヲ免ル即載罰ノ儘ニ服ス時ハ矢張り入營倉謹慎ヲ施行シタルト見做ス

第四十一條 重營倉輕營倉ニ處セラレシモノ

ノハ其所屬ノ營倉ニ固シ所属部隊ニ營倉ナキトキハ附近ニ在ル部隊ノ營倉又ハ憲兵屯所ノ留置所ニ錮スルモノトス

註 解

舊令 第二十條 營外居住ノ者ヲ營倉ニ處スル時ハ囚獄ノ監督ニ於テ之ヲ行フ

入營倉者ハ所属部隊(戶山學校等)ハ其學校ノ營倉ニテ所属部隊ニ非スノ營倉ニ錮セラル軍樂隊病院等又官衙附等ノ者ニ對シテハ營倉ナシ此ノ如キハ其所屬部隊ニ近キ部隊ノ營倉又ハ憲兵隊ノ留置所ニ入ルモノトス

此ノ間ハ入營倉部隊ノ又ハ憲兵給與及監視ヲ受クルモノトス

舊令

第十六條 謹慎限内疾病アレハ醫ヲ延クコトヲ許シ水火等ノ災害アル時ハ防救遷徒スルコト許ス

五十

第四十二條 懲罰執行中疾病ニ罹リタルトキハ醫師ノ診断ヲ受ケ水火等ノ殺害ニ際シテハ防救遷徒スルヲ得
疾病中ノ者ハ診断ノ結果ニ依リ懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得但シ停止日數ハ懲罰日數ニ算入セス

註解

所罰中ノ者ト雖モ軍醫又ハ止ムヲ得サレハ地方醫ノ診断ヲ受クルコトヲ得下士以下入營倉者ハ歩哨ヲ經テ衛兵司令ニ届出テ週番大尉ノ許可ヲ以テ所屬中隊ノ週番下士ニ依リ診断ヲ受ク將校謹慎中ハ

舊令
第七條 甲所ニ於テ此令ニ掲クル犯行アル者未タ處分ヲ經スシテ乙所ニ轉スル時ハ甲乙互ニ通議シ乙所ニ於テ處分ス可シ

出來得レハ軍醫止ムナクハ地方醫ヲ招致シ其診断ヲ受ケ其結果ヲ届出テ入院等ヲ爲スコトヲ得
又出水火災地震等ノ天災ニ際シ入營者ハ衛兵司令ノ命令ニ依リ所置シ得又將校謹慎中ナレハ其家ニ災及フ時ハ之ヲ救ヒ防ク爲メニ他出スルコトヲ得又罹災スルコトヲ得ルナリ
疾病ニ際シ下士以下營倉ヲ出テ入室入院ニ際シ又將校モ入院スルカ如キ時ハ其日數ハ矢張入營又ハ謹慎ノ數ニ算入シ減給及考科表軍隊手牒ノ汚損ハ實行ス

第四十三條 犯行者ニシテ轉職又ハ轉隊ノ

五十一

際已ニ懲罰ノ言渡ヲ受ケタルモノハ執行ノ後出發セシメ未ダ言渡シテ受ケサルモノハ舊上官ノ移牒ニ依リ新上官之ヲ懲罰スヘシ但シ第三十九條但書及第四十條ノ場合ニ在リテハ戴罰ノ儘轉隊又ハ轉職セシムルコトヲ得

註解

犯行者ニシテ轉職轉隊ノ際已ニ宣告セラレタレハ執行ノ後出發セシメ未ダ宣告セラレサレハ舊上長新上官ニ移牒ノ後處罰セラレ

第三十九條第四十條參照

第四十四條 轉職又ハ轉隊シタル者ノ舊所管ニ於ケル犯行發覺シタルトキハ新舊上官協議シ新上官之ヲ懲罰スヘシ
前項ノ規定ハ臨時他ノ部下ニ入りタル者ノ犯行ニ準用ス

註解

本條ハ目下奉職中ノ者在營中ノ者他ニ奉職ヲ移シ又ハ他ニ轉隊分遣等ヲ爲セル場合(現役ヨリ在郷モ同シ)已ニ舊所屬ニ犯行アリテ後舊所屬又ハ新所屬ニテ發見セラレシ時ハ新舊兩所ノ所管長官協議ノ上新所管長官之ヲ罰ス

舊令
第十一條 戴罰服務中
特ニ功績著クハ勤勞
アル者ハ第三條ノ諸

官其處罰ヲ免シ若クハ之ヲ輕減スルコトヲ得

第四十五條

五十四

免官降等ニ所セラレシ者又ハ罰執行中ノ者特ニ功績勤勞アルトキ若シクハ改悛ノ狀顯著ナルトキハ其官職ニ復シ又ハ其ノ懲罰ノ執行ヲ減免スルコトヲ得但シ官階ヲ復スルノ手續ハ任官若シクハ進級ノ例ニ依ル

註解

説明スル所ナシ

第四十六條

懲罰ノ執行ヲ終リタルトキハ受罰者ヲシテ將來ノ改悛ヲ誓言セシムヘシ

註解

滿罰ノ節ハ將來再ヒ此ノ如キ犯行ヲセサルコトヲ誓言(口答)ヲ爲サシム可キナリ明治十四年發布ノ罰令第十五條ニアリシ將校ノ誓言ヲ今回復活シテ一般ノ者ニ爲シタルモノナリ

參照

明治十五年發布罰令ニハ同等以上ノ者一名ヲ伴ヒテ上官ニ將來悛改ノ旨ヲ陳ヘシモノナリ即チ最モ軍人ハ廉耻ヲ重シ榮譽ヲ尙フヘキモノナルヲ以テ所罰セラレシ時ハ懺悔銘肝セサルヘカラス故ニ其期滿ルノ時ニ於テ長官ニ對シ過ヲ謝シ

將來ヲ誓テ其志行ヲ悛ムヘキコトヲ陳セシメ而シテ之ヲ證スルニハ同等以上ノ者一名ヲ同伴スルモノトセリ

然レトモ現行令ニ於テハ別斷ノ警宣ノ規定ナシ其被所罰者ノ責任トス

第四十七條 犯行ヲ審理スル場合ニ於テ犯行者ヲ營倉ニ留置シ又ハ其勤務ヲ停止スルコトヲ要スルトキハ其ノ罰權ヲ有スル上長官ヲ命シ該上官在ラサルトキハ犯行者ヨリ上級ノ者假ニ之ヲ命スルコトヲ得

註解

此條ハ新ニ設ラレシ箇條ニシテ犯罪審理中即本罪決犯者ニシテ犯罪ノ證據確實ナル者又ハ不審ナル者ヲ調査スル爲メニハ假ニ營倉ニ留置シ或ハ勤務ヲ中止シテ審査スルヲ要スルトキハ罰權ヲ有スル上官之ヲ命スト雖モ假令兵卒ノ犯罪者ヲ罰スルニ中隊長不在ノ時ハ週番士官又ハ週番下士即チ犯罪者ヨリ上級ノ者之ヲ處分シ假ニ營倉ニ入ラシメ又ハ勤務出營ヲ中止セシムルコトヲ得ルナリ

第四十八條 懲罰期間ノ計算ニハ執行ノ初日ハ時間ニ拘ラス一日トシ編入シ重營倉輕營倉ノ解錮ハ其期間ノ滿了ノ翌日午前

ニ於テ之ヲ行フ

註解

本條ハ罰期計算法ニシテ初日ハ入倉後僅カ一時間
ニテ翌日トナルモ之ヲ一日ト計算ス滿罰ハ翌日午
前トナス

第四十九條 軍人ニシテ軍紀風紀ニ有害ナ

ル行爲アルトキハ現認シタル上級者ハ訓
誡制止シ尙所罰ニ處スル必要アルト認メ
タルトキハ本人所屬ノ上官ニ申告スヘシ

註解

校下士兵卒ヲ問ハス軍人ニシテ軍紀風紀ニ有害ナ

ル行爲ヲ爲シタルヲ現ニ目撃シタル部下ト然ラサ
ルトヲ問ハス上官ハ之ヲ捕ヘ訓誡制止シ尙所罰ニ
處スル價値アルト認メタル時ハ本人ノ所屬部隊ノ
上官ニ申告ス

假令日曜日外出シアル兵卒某將校ニ缺禮センカ其
將校ハ他ノ所屬ノ兵ナリト雖トモ之ヲ捨テ置カス
捕テ訓誡ヲ與フ

狀情ニ依リテハ所屬部隊ニ通報スヘシ

第五十條 俘虜ノ懲罰ハ其官等及身分ニ應
シ將校下士兵卒ニ準シ第五條ノ罰目ヲ準
用ス

陸軍刑法ニテ俘虜ニ關スル罪ヲ定メラレタルト等シク新ニ浮虜ノ懲罰ヲ規定シタリ之日露戰役ノ際經驗ニ依リ所定シタリ

此方法ハ我國ノ現役者ニ異ラス第五條ニ準スト雖免官降等ハ此限リニ非ス

附錄

軍隊內務中營倉之定則

第一 營倉ハ重輕營倉ニ處セラレタル者ヲ錮シ又犯罪者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置ク所トス

第二 營倉入ノ者ハ成ルヘク一人宛別房ニ錮スルヲ要ス

第三 營倉各房ノ入口ニハ營倉入ノ者ノ隊號官等級氏名重(輜)營倉留置等其他必要ナル件ヲ記シタル札ヲ掲クヘシ

第四 輕營倉入ノ者ニハ消燈時限ヨリ起床時限マテノ間蚊帳毛布ヲ與ヘ食物ハ平時ニ異ナルコトナシ又必要ノトキ入浴ヲ許スヘシ

重營倉入ノ者ヲ輕營倉ニ移シタルトキハ前項ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第五 營倉入ノ者ニハ著用スル被服ノ外物品ヲ所持ス

ルコトヲ許サス但シ用紙若干及勤務書ノ内一本ヲ限
リ之ヲ許スコトヲ得

第六 營倉入ノ者ニハ公務ノ外面會スルコトヲ許サス
又營倉入ノ者ヲ出ストキ監視者ヲ付スヘシ

第七 満罰者ハ營倉ニ入リタル時刻ニ係ラス満罰翌日
ノ起床時限ニ之ヲ出スモノトス

●警察犯處罰令(○印ヲ附スルモハ兵士等ノ取締ニ必要ナリ)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘
留ニ處ス

○ 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船
船内ニ潜伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

○ 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シ
タル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘
留又ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物
品入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落

札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者

○ 五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ申込ヲ求メタル者

八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

○ 九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

○ 十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者

十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞

アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠
リタル者

○ 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ
妨害ヲ爲シタル者

○ 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ
行爲ヲ爲シタル者

十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虚報ヲ爲シ
タル者

十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若
ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八 病者ニ對シ禁壓、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神

水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者

○ 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服
飾、徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル
者

二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義
務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

○ 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使
用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者

二十三 河用、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲
ヲ爲シタル者

- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花採ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛澆シ又ハ放射シタル者
- 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者
- 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖
リタル者

三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘ
キ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

○ 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類
ヲ解放シタル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ科
料ニ處ス

- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之
レカ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、程屎シ又ハ

○ 醫部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

○ 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘ
キ物ヲ玩ヒタル者

○ 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又
ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者

六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシ
タル者

七 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キ
ニ應セサル者

八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者

- 九 炮糞、洗滌剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ
飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ
取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊
セシメタル者
- 十二 濫ニ犬其他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメタル
者
- 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逃走セシメタル者
- 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ
動物ヲ虐待シタル者

- 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ
之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ
他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏
ヲ繫キタル者
- 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸
車ヲ牽入レタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助
シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其
ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

補 輯

勅令第三一五號

陸軍々屬ノ懲戒ニ關シテハ免官免職ノ場合ヲ除ク外陸軍懲罰令ヲ準用シ之ニ科スヘキ罰目ハ同令第五條ニ依ル前項ノ場合ニ於テ高等官及高等官待遇ノ者ハ將校ニ判任官及判任官待遇ノ者ハ下士ニ其他ノ者ハ兵卒ニ準ス

附 則

本令ハ陸軍懲罰令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍懲罰令註解了

明治四十二年七月卅一日印刷
明治四十二年八月五日發行

懲罰令註解與付

定價金拾五錢



復 製
不 許

發 行 兼
印 刷 者

東京市麴町區隼町四番地

小 林 又 七

電話番町一六二九番

陸軍省構内

小 林 又 七 工 場

電話新橋九四一番

印 刷 所

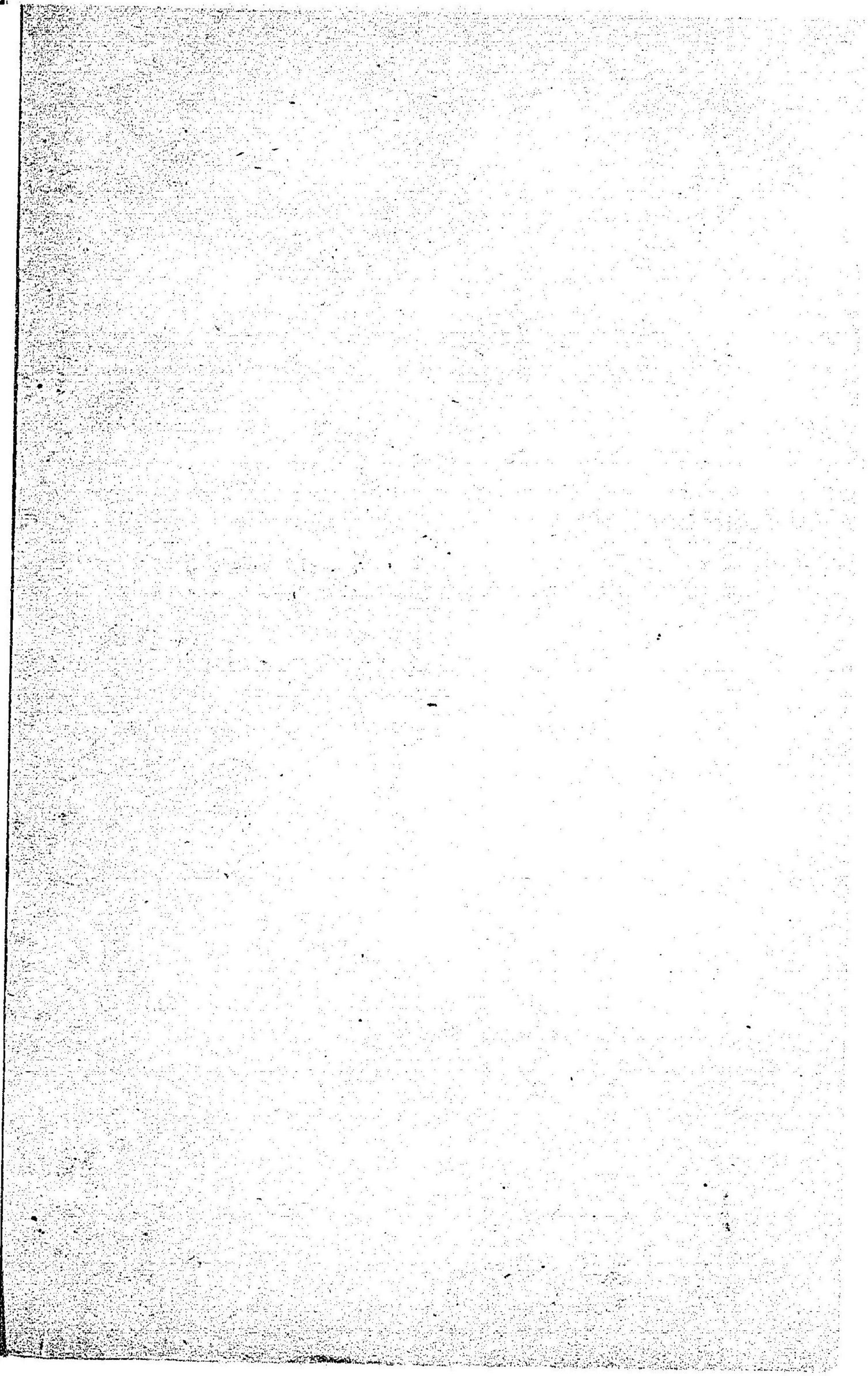
東京市麴町區隼町四番地

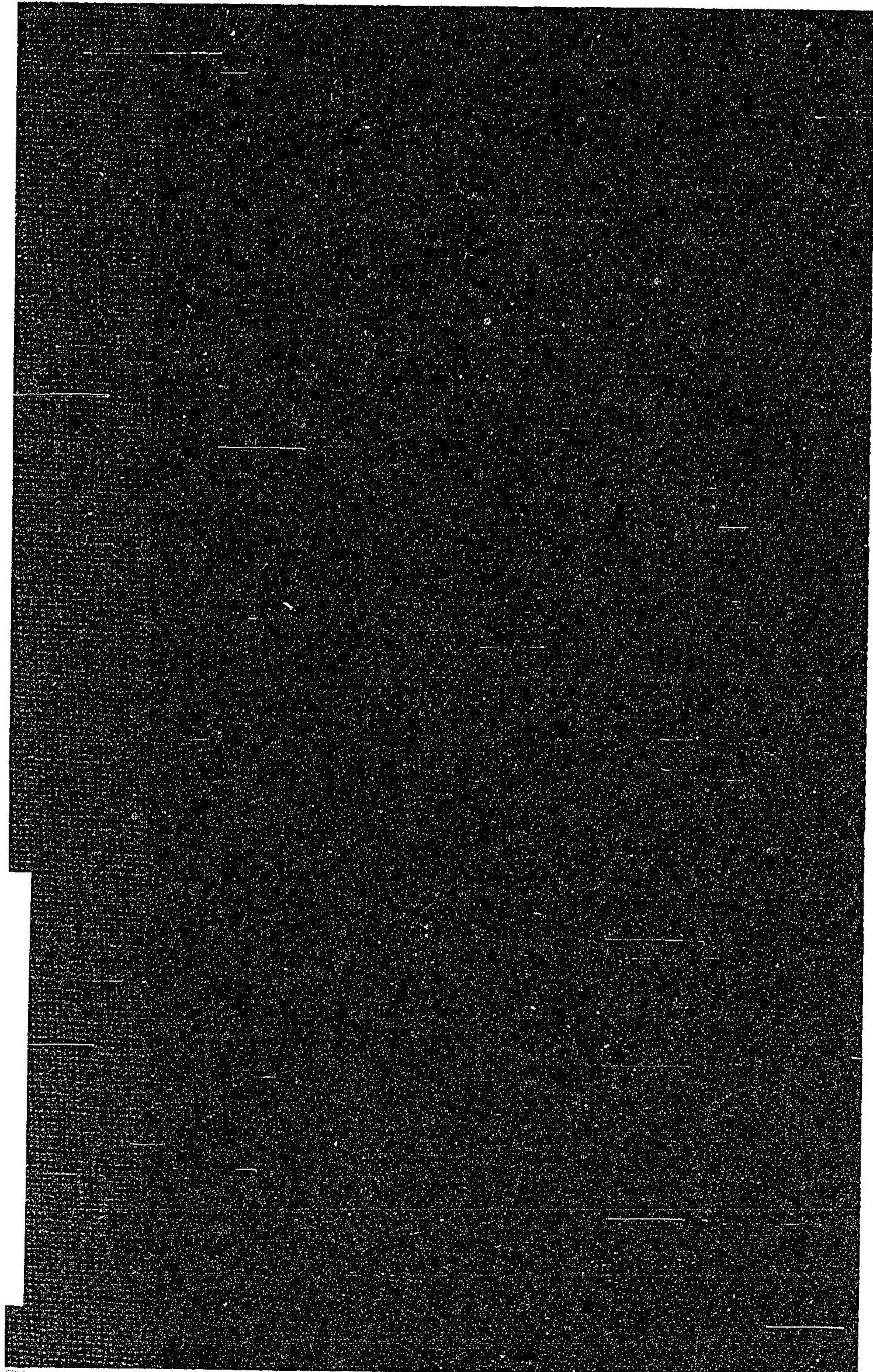
川 流 堂 小 林 又 七

電話番町一六二九番
振替貯金東京二九六番

發 賣 所

259
520





特 30

956

新旧
対照 陸軍懲罰令註解

国立国会図書館

036352-000-8

特30-956

陸軍懲罰令註解

川流堂

M42

BBQ-0054

